

# ほかほかタイム

第4回目の「ほかほかタイム」は、ボーイスカウト隊長の星野典雄様をお招きして、お話を伺いました。



ボーイスカウトは、幼稚園の年長さんから大学生までの子どもたちが、5つの部門に分かれて入っています。ボーイスカウトは、約100年前に、イギリスのベーデン - パウエルという人が作りました。ベーデン - パウエルが、イギリスのブラウンシー島で、20人の子どもたちとキャンプをしたことが始まりです。それが、どのように広まっていったかについて、次のような話があります。霧の深いロンドンで道に迷ったアメリカの旅行者を、ある少年がその場所まで案内して連れていったそうです。お礼にチップを渡そうとしたところ、その少年は、「今日初めて善いことを行ったことが、幸せなのです。」と言って、受け取りませんでした。少年は、ボーイスカウト

に入っていて、感動したその旅行者が、アメリカに帰って話をしたことで、広まっていったのだそうです。今、ボーイスカウトは、日本には12万5000人くらい、世界には1300万人くらいいます。そのうち、栃木県には約1300人、今市には栃木県では一番多い100人ほどいます。ボーイスカウトをやっていた有名人もたくさんいます。例えば、元総理大臣の麻生太郎さん、2010年サッカーワールドカップ日本代表監督の岡田武史さん、宇宙飛行士の野口聡一さん、お笑いタレントの宮川大輔さんなどです。



ボーイスカウトでは、何をやっていると思いますか？東日本大震災や熊本地震などの災害が起きた時に、店頭で募金活動をします。それ以外に、自分のためになることが書かれた本の中にあることを習得するために、いろいろな訓練をします。そして、習得するとワッペンがもらえます。例えば、自転車の部品を覚えたり、パンクの修理の仕方を覚えたり、交通ルールを覚えたりすると、自転車のマークのワッペンがもらえます。ほかにも、砂や炭などを入れたペットボトルを作って、川の水を蒸留する方法を学んだり、2本の棒と



着ている洋服で担架を作ったりなど、災害などの万が一に備える訓練などもあります。ロープもいろいろな縛り方があります。引っ張っても締まらない「もやい結び」は、誰かが海などでおぼれたときに、役に立ちます。また、キャンプをして、鍋を使わずに竹を使って、手で水加減を覚えてご飯を炊いたりします。

どうして、こういうことをやっているのでしょうか。ボーイスカウトでは、君たちが立派な大人になるように訓練しているのです。

星野さまは、いろいろな実物をお持ちくださり、実演しながらお話いただいたので、子どもたちは夢中になって話を聞いていました。

子どもたちの感想は、裏面に載せてありますので、ご覧ください。

キ リ ト リ

保護者の皆様から、御意見・御感想がありましたら、お寄せください。

担当：大森

氏名 ( ) 児童名 ( 年 組 )

次号の道徳だよりに、匿名で御意見・御感想を掲載させていただきたいと思いますので、御了承ください。